

伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会

対話・つながり・実現の場

## 第4回 開催報告

「可能性1」  
スポーツを核とした官民連携の可能性を探る！

2025.8.24

---

# 開催報告

## テーマ

「可能性1」スポーツを核とした官民連携の可能性を探る！

## 開催概要

- 日時 : 2025年8月24日（日）13:00-16:00
- 開催場所 : 伊那市防災コミュニティセンター
- 参加者 : 約50人（一般参加：約40人、協議会メンバー・市職員・関係者：約10人）

## プログラム

### 1. 官民連携の事例を通して弥生校舎の将来活用を考える

話題提供：坂口 淳 氏（公民連携地域づくりプロデューサー）

### 2. パネルディスカッション 「スポーツ」「合宿」を通じたまちづくりの可能性

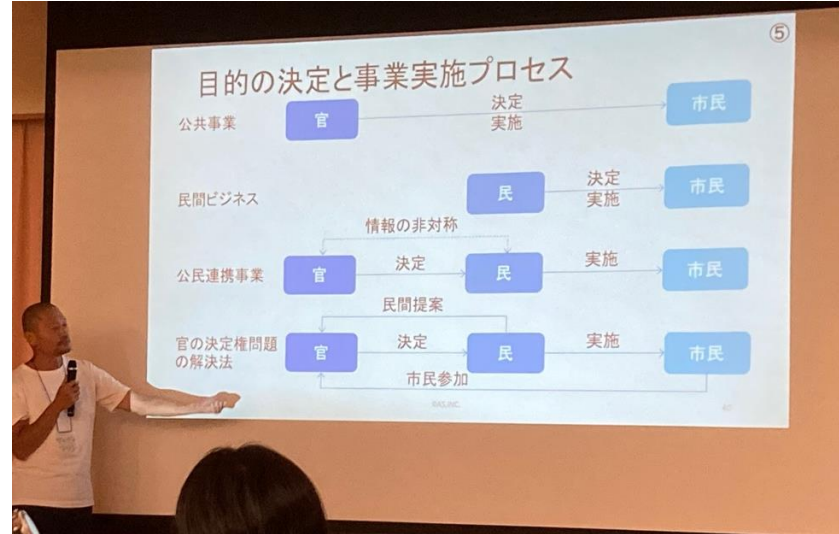
パネリスト：坂口 淳 氏  
安井 隆 氏（オランダ教育とスポーツの専門家、Rots en Waterトレーナー）  
北原 俊文 氏（上伊那農業高校教諭、一般社団法人WCP理事、PSJクラブアカデミー代表）

### 3. グループワーク 「スポーツ」「合宿」をキーワードに弥生校舎の将来活用を試案しよう

## 官民連携の事例を通して弥生校舎の将来活用を考える



話題提供 坂口 淳 氏



## 官民連携の事例を通して弥生校舎の将来活用を考える

### ●COSMOS（熊本県フットボールセンター）の事例

- ・ 想い、コンセプト：存在意義としても、資金繰り的にもサッカーだけの場所にしたくない。  
⇒ サッカー場（イベント会場）＋複合施設（子育て、保育園、飲食等）  
サッカーをやっている人たちに別の事を知ってもらいたい。  
保育園が一番の稼ぎ頭  
施設全体でバランスをとる。（個別の施設だけではやっていけない時代になってきた。）
- ・ アクシデント  
⇒ 計画後、震災のため中断。復興のシンボルにしたい思い。  
ウッドショック、戦争等発生。建設費用の増加

### ●彦根市金亀公園の計画

- ・ 町のクラブチームが主体。事業主体が費用面で覚悟を決めることで真剣になれる。

### ●公民連携≠官民連携

- ・ 民間が主導で進める稼ぐ公民連携により、小さな政府で大きな公共を成立させる。
- ・ 民間が責任をもって舵取りを！（行政主導にしない。補助金にできるだけ頼らない。ランニングも自らで継続させる。）
- ・ ノウハウ、情報は民間の方が優勢。→マインドを持った民間が主導し、行政は支援をする。
- ・ 民間と行政における「失敗」認識は乖離している。

### ●エリアの価値を上げることがゴール

- ・ 施設の敷地内での成功ではなく、施設が存在するエリアでの成功を目指す。  
（敷地内での収益が良くなくても、エリアが盛り上がれば成功。逆もしかり）

## 「スポーツ」「合宿」を通したまちづくりの可能性



安井 隆 氏

- ・ 個人GDP1位、子供の幸福度1位、大人の幸福度が高いオランダの教育、マインドについて。
- ・ コミュニケーション能力、人材を教育する土壌について、日本とオランダの違い。
- ・ 体育の授業の様子。選択式により苦手を意識させない。
- ・ 人として強く育つための教育を。地元企業はその活動への投資を。  
⇒企業イメージUP  
地元の未来を担う子供の郷土愛を育む



北原 俊文 氏

- ・ 中学生部活動の地域以降の難しさ。受け皿（大人側）の醸成が間に合っていない。
- ・ 指導者、宿泊施設の不足。→スポーツ振興の障害
- ・ スポーツを通して地域で育てるまちづくり。
- ・ 将来に繋がる世代間交流が必要。  
→縦のつながりを大人がサポートする。
- ・ 新施設への期待

## 「スポーツ」「合宿」を通したまちづくりの可能性



### ●楽しみ>遊び(Play)>スポーツ>体育(Practice)

⇒楽しむことが根源であり、人生で一番重要。より良い楽しみのために一生懸命働くことが本質。

- ・現状、分裂しすぎたチームで場所の取り合い。持続性はあるか？地域でまとまることも視野に。
- ・季節に合わせて多様なスポーツを経験することが必要。
- ・日本の、自身が属する競技を一つに絞る文化→燃え尽きる→競技人口の低下→持続性に欠ける。
- ・日本の「体育」は軍隊教育がルーツであり、いまだ脱却できず硬いまま。

### ●選ばれる地域になるには、親が口を出すのではなく、大人（企業、行政）が手を出す（投資する）べき。

- ・受益者は誰なのか？
- ・子供の学びへの投資はすべての大人（企業、行政）がすべき。
- ・オランダでは地元企業が地元クラブに投資。→長いスパンで見た人材教育の好循環を構築している。
- ・公民連携のメリット：自由度が高い
- ・公共は行政だけではなく、全員が担っている



## グループワーク



### ○坂口チーム

事業化や場づくりに向けたアイデア出し

- たくさんのアイデアや、「こんな場になったらいいな」というキーワードをそれぞれに出し合いました。
- スポーツを切り口に「遊びや学び」を提供する場として、子ども、青少年や若者、大人、シニアなど、多様な人たちが集まる場をつくるというアイデアが多かったです。
- スポーツや遊びを体験できる場、森や緑に囲まれた場、何もなくても行きたくなる集える場、若者も大人もチャレンジできる場など、こんな場にしたいというキーワードもたくさん集まりました。
- そこからどう具体的な事業へと落とし込むか？という部分はこれからですが、これらのアイデアの種を参考に、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。
- 具体的なアイディアがたくさん出てきました。事業化も意識している例も見られ、皆さんの「やりたい」を持ち寄って、それぞれがテナントとしてはいるだけでも多様でワクワクするような場になるイメージでした！共通するのは「生涯にわたる学び」というキーワード。この場合の「学び」は「スポーツ」も「遊び」もすべて含まれます。



### ○安井チーム

#### PLAY=遊び

生涯スポーツを通じて誰もがハッピーでいられるようにをテーマに話しました。

- ・スポーツと言うとどうしても競技としての意味合いに捉えがちですが、実際は体を動かすことで、人として一生必要な力。ソーシャルスキルとして捉えるということがみんなの気づきです。
- ・スポーツを楽しみながら続けることで、子供の頃は運動遊びとして、心と体と頭を作り、大人になってからは健康を維持し続け、長く楽しく元気でいるために生涯にわたって重要だとチームのみんなで共有しました。
- ・オランダ体育については、運動が苦手でも楽しくできそう。いろんな動きがあるので、飽きずに続けられる。ハンディキャップの有無も問わずに参加できることなどについて、参加者の皆さんがすぐにでもやってみたい！と言った雰囲気。
- ・もう一歩踏み込めば、傷ついても立ち上げられる、助けてと言えるなど動きを通して、誰もが身につけたいソーシャルスキルを的確なアドバイスで身につけられることも魅力の一つとして語られました。



## グループワーク



### ○北原チーム

こんな合宿所があればいいな」をテーマにディスカッション

- ・各々のアイデアを共有し、内容ごとに整理しました。
- ・出された意見に共通する事項として、単に競技力の向上を目指すのではなく、この場所での合宿が特別な体験となることへの期待
- ・合宿の重要な要素として「食」があるが、地域の食材を活用したり、バーベキューなど共同で調理するなど、様々な体験を加えることで思い出に残る合宿になることへの期待
- ・その他にも、伊那の文化施設を巡るほか、森林での体験や焚き火など伊那の良さを知ってもらえる合宿所が整備されることで、伊那への再訪を期待する意見が出されました。
- ・運動部所属の高校生の参加があり、合宿体験者の“生”の声を聞きながらのディスカッションとなりましたので、弥生ヶ丘高校の将来活用につながる対話ができたとと思います。



グループワーク前に  
みんなでアイスブレイク♪

## (参加者アンケートから)

### (話題提供) 官民連携の事例を通して弥生校舎の将来活用を考える

- ・坂口さんの具体的な事例はとても参考になりました。サッカーの事例とは違うので、どうアイデアに落とし込むのか？収束させるにはパワーが必要だと思います。
- ・パブリックな意見、力を必要とする。
- ・継続して何回でもいつでも誰でも来たい場として。
- ・山梨県から来た甲斐がありました。
- ・教師の立場から、選手、保護者を含め一つの競技に拘わらないこと。高校卒業後に多くの人がやめてしまう。
- ・興味深い内容でした。
- ・とてもいい出会いがあって良かったです。
- ・とても参考になりました。まさに知りたいことでした。
- ・保育園や障害者施設を併設することで、持続的な場所になるということが大きなヒントになった。
- ・官と公の違い、スポーツが地域にどんな価値をもたらすかのヒントなどを得ることができた。

### (パネルディスカッション) 「スポーツ」「合宿」を通したまちづくりの可能性

- ・「覚悟」という言葉がとても刺さりました。
- ・市民それぞれが持つ想いをどのように昇華させていくのか？その辺りの話を伺いたかった。
- ・3名の取り組みについて知ることができて、大変有意義でした。
- ・オランダの教育について興味を持ったので、いろいろ調べてみようと思いました。
- ・よい刺激、価値観の転換を意識しました。
- ・ジャンルの違う3人のチョイスがとても良かったです。どの方のお話も視点が違って面白かったし、自分も多角的に考えようと思えました。
- ・合宿するということについてもう少し話が聞きたかったかな。
- ・公式戦は学校名で出場するので、“楽しみ”としてのスポーツを根付かせるのは時間がかかるか。
- ・新しい視点を学んだ気がします。
- ・スポーツが勝ち負けのみにとらわれた狭い世界ではなく、「遊び」なのだとわかって楽しくなった。
- ・オランダの事例はとても参考になった。やはり、子どもの権利がしっかり保証されているからこそ、あのようなスポーツ文化ができるのだろう。
- ・企業がスポーツや合宿を通じてどのような利益をもたらされるかに、全く意識をしていない。

## (参加者アンケートから)

### (グループワーク)「スポーツ」「合宿」をキーワードに弥生校舎の将来活用を試案しよう

- ・参考になった。(時間が足りなかったかも)
- ・スポーツをキーにすることは良いアイデアだと思います。また、仕組みや保護者のマインドをどう変化させていくのかが課題と感じました。
- ・各種のスポーツ協会に施設活用についてリサーチしてから考えるとよいと思いました。
- ・生涯ずっとワクワク遊ぶ＝遊び続ける
- ・高校生が入るとよりリアルな話があり、とても良いです。
- ・施設の整備ばかりを考えるのではなく、空間の価値を変えれば何かできそうな気がしました。
- ・キーワードからあまり期待していなかったが、(目からうろこの)新たな価値観を知ることができた。
- ・とても良かったです。
- ・いろんな人が参加されてて、参考になりました。
- ・時間がもう少しあって話し合いができれば、より面白いアイデアが生まれたと思う。

## (運営メンバーから)

### ■伊那弥生ヶ丘高校将来活用ワーキンググループ

#### ○リーダー 平賀 裕子

- ・今回の対話の場では、事業化ということを皆様が意識し始めた機運を感じました。
- ・坂口さんのお話は、事業の成り立ちから収支までのお金の情報も赤裸々に入れてくださったことから、よりリアルに考えるきっかけとなりました。また、官民連携ではない、公民連携という意味を説明して頂き、この考え方を共有していきたいです。
- ・北原先生のお話しでは、合宿のリアル、部活動の地域移行のリアルを教えて頂きました。合宿のリアルのグループワークでは、高校生の視点が入り、大人とは違う視点にこれからは若者の意見を聞くことの大切さを感じました。部活動の地域移行に関しては、このテーマだけで対話の会を設ける必要性を感じました。
- ・安井さんのオランダスポーツからは、競技としてのスポーツという考え方ではなく、体を動かすことや遊びそのものが人生をよりよくするために必要だという、根柢の考え方を学びました。
- ・弥生ヶ丘高校という場で活かす活かさないに関わらず、多くの視点を頂いた会でした。また、様々な事業構想のアイディアを頂きました。

#### ○山本 風音

- ・坂口さんがおっしゃった「パブリックマインドを持った熱意のある民が事業を主導し、官がその意思を後押しする。そうした公民連携の形でしか、成功した事例はない」という言葉が、ズドンと響きました。自分自身も日々そのことを感じていることに気づき、民と官の役割と関係をどう捉えるか、パブリックに場を開くとはどういうことか、あらためて考えさせられました。
- ・オランダ教育についても、競争、勝ち負け、忍耐や鍛錬といったイメージだけではない、スポーツにおける本来的な「遊ぶ楽しさ」「身体を動かす楽しさ」を元に、スポーツの役割や教育的な学びについて捉え直すことができたように思います。そうした本来的、普遍的な「楽しさ」や「心地よさ」をベースに、それらを互いに共有するような場として、公民連携のパブリックな場づくりが進められたらと思いました。

#### ○須永 理葉

- ・弥生ヶ丘活用のワークショップを通じて実現したい姿は変わりませんが、どんな手段で？の一つとしてスポーツの有効性について参加者の皆さんみんなで共有できたと思います。
- ・坂口さんから事業全体の資金計画の事例を含んでお話しいただき、事業とはどんなことなのか？の第一歩を覚悟という言葉で実感しました。
- ・安井さんから日本とオランダの比較の中で、弥生ヶ丘で実現したいスポーツの捉え方を参加者の皆さんと共有できました。
- ・北原さんから地域の子どものスポーツをめぐる環境や伊那が合宿の場として魅力的であることを教えていただき、具体的なニーズに基づく活用方法を探っていけそうです。

## (運営メンバーから)

### ■伊那弥生ヶ丘高校将来活用ワーキンググループ

#### ○伊那市商工振興課長 柴 正人

- ・今回のスポーツをテーマにした対話集会は、講師の方々のお話が大変興味深く、心に落ちる内容でありました。
- ・熊本フットボールセンターの「公民連携の地域づくり」について、成功するための運営資金や官と民で得意とする部分を線引きしながら進める方法、点ではなくエリアで考えた施設コンセプトなど、数多くのことを教えていただきました。
- ・オランダ教育について、実際にお話をお伺いして「日本の子供たちには、今、何か必要なのか」を改めて考える機会になりました。
- ・スポーツ合宿について、伊那市内の宿泊施設の不足、地域スポーツの課題など、現場の率直なご意見をお聞きすることができました。



伊那新校、上伊那総合技術新校の開校を契機に、  
多様な皆さんとこれからの伊那市のまちを共に考えて創っていきたいという想いで「新しいまちづくり」が始まりました。

## 伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会

### 対話・つながり・実現の場

誰かがやってくれるまちづくりに意見する、ではなく、自分がつくる、取り組む人と共にある。  
そんな、つながり、対話し、実現する場をどうしたらできるだろうか。

これからは、想いのある皆さんと共に考え、試行錯誤しながら共創の場をつくっていければと思います。

いつでも、思い立った時に、ふらりと参加でき、まちのこと暮らしのことを気軽に話せる場。  
もっと知りたい、もっとやりたい、やってみようが生まれる場。  
そんな新しくゆるいコミュニティが生まれる場。

そんな、いつでもそこにある場に育てていきましょう。